

長者屋敷官衙遺跡はこんなところ

長者伝説

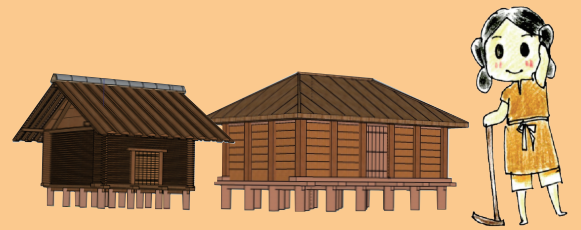
長者屋敷官衙遺跡という名は、この地から焼け焦げた米が沢山出土することから名づけられた地名「長者屋敷」からきています。長者の米倉が沢山あったが火事であって炭になってしまったという言い伝えが周辺の集落に伝わっていました。



炭化米

巨大倉庫群発見

この言い伝えを裏付けるように平成7年に市営住宅の建て替えに伴って行われた発掘調査では、古代（奈良時代～平安時代）の米倉が姿を現しました。溝や堀で区画された1ヘクタールもの広さの中に、巨大な柱穴が同じ方向をむいて16棟の大きな倉が整然と並んで建っていました。こうした姿から長者の倉などではなく、日本が国家として歩み始めた時代、地方支配の拠点として置かれた役所、古代（こだい）郡衙（ぐんが）（郡の役所）の正倉（しょうそう）であることが分かりました。



最初の調査の様子

国の指定へ

遺跡は、大分県内で唯一の正倉跡発見例であり、九州でも類例の少ない礎石建ち建物も発見されたこと、一つの区画の中の建物配置の全体像が明らかになったことが評価され、平成22年に国史跡に指定され、現在整備をすすめています。

周辺施設をさがして... ついに大型建物発見！

古代郡衙は「正倉」の他に、「郡庁」「館」「厨」などがあります。中津市教育委員会では、これらの施設を探すために周辺確認調査を続けてきました。そして令和4年度調査で、面積200㎡を超える大型建物を発見しました。四面に廂を持つ、格式の高い建物であることから、郡衙の中心施設であった可能性が高いものです。



大型建物発見